

日本語の「は」と韓国語の「가」の対応様相 —前接名詞が「ヒト」である場合—

印省熙
神田外語大学

1. はじめに

日本語の「は」「が」と韓国語の「는」「가」¹⁾は、森下喜一・池景来(1992:46-52)に「日本語の格助詞「が」に相当する韓国語の助詞には、「가/이」がある」とし、「日本語の係助詞「は」に相当する韓国語には「는/은」がある」としているようにそれぞれ対応形式とされる²⁾。

「が」と「は」、「가」と「는」の使い分けについても、新情報と旧情報、主格と主題、現象文と判断文、排他³⁾と対比、情報の焦点の位置についての類似の指摘がある⁴⁾。

実際、「日→韓」、「韓→日」の小説やシナリオの原本と翻訳本を対象にした本稿の調査によると、「は」の84.7%は「는」に、「는」の78.4%は「は」に対応しており、「が」の81.8%は「가」に、「가」の72.5%は「が」に対応しておりこれらの形式の類似性がうかがえる⁵⁾。

なお、「は」と「가」の対応については、菅野裕臣(1990:257)、梅田博之(1991:27)において、「疑問詞疑問文」における「は」と「가」の対応⁶⁾、二重主語文における「は」と「가」の対応⁷⁾、連体節における「の」と「가」の対応⁸⁾についてなどの指摘がある。これを受けて、이은경(1999:69-71)⁹⁾には「日本語では「は」の位置にも韓国語では‘이/가’を使用できるという点で韓国語の‘이/가’の使用範囲が日本語の「が」よりも広いことが確認できる」としており、油谷幸利(2005:116)でも、「韓国語においては、初出の体言を「가/이」で指示する範囲が日本語より広いので、日本語では「は」で指示する場合にも가/이が用いられることが多い」とし、相違があることを指摘している。

2. 問題のありか

しかしながら、これらの指摘では、それぞれの形式がどういう統語的条件の基で、どういう意味用法の時にズレがあり、それはなぜなのかについての詳細な言及はない。

実際の例では次のように、「は」は「가」に、「가」は「は」に対応しており、先行研究で解明されなかった現象が容易に発見できる。

「日→韓」

(1) 小塚は机の上に広げられていたファイルを閉じた。「ドアを閉めてくれ」大きな儲け話か、深刻な相談事のどちらかが控えているらしい。ドアを閉め、彼のデスクに近づいていった。

「日星自動車から連絡があった」四十五歳の社長はいった。(ゲ7)

(前略) “닛세이 자동차에서 연락이 왔네.” 올해 마흔다섯 살인 사장이 말했다.
(계 11) ¹⁰⁾

「韓→日」

(2) “지금부터 니가 하는 말에 책임져. 한마디만 거짓말 하면 죽어. 혼이가 내 아들 맞아?” “내가 잘못했어.”

「自分の話に責任持て。ウソは許さない。フンは俺の息子か？」

「ごめんなさい。」(内)

本稿では例(1)(2)のように、「は」と「가」の対応の様子を実際の例を中心にその統語的条件と意味的条件を明らかにすることを目標とする。その際「は」と「는」の相違が「は」と「가」の対応を引き起こす原因の一つであると考え、「は」と「는」の相違についても論じる。

3. 考察の資料と考察方法

本稿では「日→韓」、「韓→日」の小説とシナリオの原本とその翻訳本から例を採集し分析の資料とする。資料の分析結果、日本語では「は」が「가」よりほぼ二倍近く多く現れるのに対し、韓国語では「가」と「는」は同じ頻度で現れるという使用頻度の相違と、「は」や「는」、「가」や「가」の文における現れ方を考察対象とする。その際に、統語的な条件として「は」と「는」、「가」と「가」で受ける前接名詞との結合関係つまり、各形式が受ける前接名詞 ¹¹⁾が「ヒト」名詞(有情物)か、「モノ」名詞(「コト」名詞を含む、無情物)かであることと、述語文のパターンは「は」と「는」、「가」と「가」の使い分けと関係すると考え ¹²⁾、後続の述語が「動詞述語文」¹³⁾であるか、「名詞述語文」¹⁴⁾であるかという点を関連づけて考察する。なお意味用法としては、「は」と「는」においては「主題」と「対比」を中心に、「가」と「가」においては「主格」と「排他」を中心に考察する。次に各用例の採集結果を示す。

4. 採集用例の結果

「日→韓」、「韓→日」の本稿の調査による実際の使用例の分布を示すと次のとおりである。

〈表1〉「は」と「が」、「는」と「가」の使用頻度の比較¹⁵⁾

「は」と「が」			「는」と「가」		
は	601	66.6%	는	204	50.0%
が	302	33.4%	가	204	50.0%
合計	903	100%	合計	408	100%

用例採集の結果、日本語では「は」が「が」よりほぼ二倍近く多く現れるのに対し、韓国語では「는」と「가」は同じ頻度で現れ、日本語における「は」使用の多さが浮き彫りになった。

〈表2〉各形式の前接名詞のうち、「ヒト」名詞と「モノ」名詞の出現率

前接名詞	は	는	가	가
「ヒト」	355 (59.1%)	153 (75.0%)	158 (52.3%)	123 (60.3%)
「モノ」	246 (40.9%)	51 (25.0%)	144 (47.7%)	81 (39.7%)
合計	601	204	302	204

各形式の前接名詞は、どの形式においても「モノ」名詞より「ヒト」名詞が多い。「モノ」名詞の出現率を四形式で比較すると、「는」より「は」において、「가」より「가」において「モノ」名詞の比率が高い。特に「는」は、「ヒト」名詞が前接する場合は、75.0%で非常に高く、「モノ」名詞との結合は25.0%と非常に低い。それに比べ「は」は「ヒト」名詞が前接する場合は、59.1%で、「モノ」名詞との結合は40.9%と、「는」に比べ、「モノ」名詞との結合が多い。「は」と「는」では結合する前接名詞の種類において相違が見られる。

なお「が」の場合は「ヒト」名詞と「モノ」名詞がほぼ半分ずつ現れるのに対し、「가」は「ヒト」名詞が60.3%が現れ、「が」より「가」において、「ヒト」名詞との結合が多い傾向が見られる。

〈表3〉各形式別の述語文のパタン

述語文	は	는	가	가
名詞述語文	110 (18.3%)	13 (6.4%)	33 (10.9%)	23 (11.3%)
動詞述語文	491 (81.7%)	191 (93.6%)	269 (89.1%)	181 (88.7%)
合計	601	204	302	204

各形式の述語文の種類ごとの出現率を比べてみると、全体的に「名詞述語文」より「動詞述語文」が多いが、その中で「名詞述語文」の比率を見ると、「は」は「名詞述語文」が110例で「は」全体の中で18.3%であり、四形式の中

では最も高い。それに対し、「는」は「名詞述語文」が13例で「는」全体の中で6.4%で四形式のうち最も低く、「は」とは対照的である。四形式の中で、「は」は最も「名詞述語文」を好み、「는」は最も「動詞述語文」を好むと言えよう。「は」と「는」は述語文のパタンにおいても相違が見られる。

一方、「が」と「가」はほぼ同じ様相を見せ、両方とも「動詞述語文」との結合が高い。

〈表2〉と〈表3〉で見ると、四形式の実際の用例においてその現れ方に相違が見られる。このような相違の様相から、本稿では、前接名詞が「ヒト」名詞か、「モノ」名詞かであることと、述語文が「名詞述語文」か、「動詞述語文」かであることが四形式の特徴に深く関わっていると考え、前接名詞の種類と、述語文の種類を分け、考察を行うことにする。

次に〈表2〉と〈表3〉を合わせた表を示す。

〈表4〉前接名詞と述語文のパタン

〈表4-1〉前接名詞が「ヒト」である場合の述語文のパタン

	名詞述語文	動詞述語文	合計
は	44 (12.4%)	311 (87.6%)	355
는	8 (5.2%)	145 (94.8%)	153
가	18 (11.4%)	140 (88.6%)	158
가	11 (8.9%)	112 (91.1%)	123

前接名詞が「ヒト」である場合、「名詞述語文」との結合は、「は」が12.4%、「가」が11.4%で高く、それに比べ「는」と「가」は低い。日本語の方が韓国語より「名詞述語文」との結合は高い傾向が見られる。〈表3〉で見たようにここでも、「는」は「名詞述語文」が5.2%で最も低く、ほとんどの例が「動詞述語文」と結合しており、四形式の中で「名詞述語文」が最も多い「は」と「名詞述語文」が最も少ない「는」は対照的である。

〈表4-2〉前接名詞が「モノ」である場合の述語文のパタン

	名詞述語文	動詞述語文	合計
は	66 (26.8%)	180 (73.2%)	246
는	5 (9.8%)	46 (90.2%)	51
가	15 (10.4%)	129 (89.6%)	144
가	12 (14.8%)	69 (85.2%)	81

前接名詞が「モノ」である場合、「は」の「名詞述語文」は<表4-1>の「ヒト」名詞である場合に比べ高くなり、26.8%を占める。それに対し、「는」は9.8%と依然と四形式の中で最も低い。「ヒト」名詞で「는」が5.2%だったことと比べると比率は高いが、「ヒト」名詞の場合が153例もあるのに対し、「モノ」名詞は51例しかなく、「モノ」名詞の出現率が低い。「는」は「モノ」名詞の場合の使用が少ない。

「が」と「가」は基本的に「動詞述語文」との結合が高い。

本稿では<表4-1>の結果を用いて、前接名詞が「ヒト」である場合に限りて考察する。前接名詞が「モノ」である場合を含めた考察は、四形式の全体像の把握には欠かせないが、それについては稿を改めたい。

考察の際には次のような略字を用いる。「는」と「가」においても同様である。

(略字例)

- <ヒトはN> : <前接名詞「ヒト」名詞 + は + 名詞述語文>の構造を指す。
 <ヒト가V> : <前接名詞「ヒト」名詞 + 가 + 動詞述語文>の構造を指す。

5. 考察

ここでは前接名詞と述語文のパターンという統語的条件と、それぞれの文が表す意味的条件を関連づけて<表4-1>の結果に沿って、前接名詞が「ヒト」である場合の「は」と「가」の対応様相を考察する。

本稿では「は」と「는」の相違が「は」と「가」の対応をもたらす一つの原因であると考え。そのためまず、「は」と「는」について考察を行う。

次の例は、「は」と「는」の主題や対比¹⁶⁾の場合でそれぞれ自然に対応している。例(3)は<ヒトはN>の構造で、例(4)は<ヒト는N>の構造である。構文的に、前接名詞が「ヒト」名詞で、「名詞述語文」と結合して、意味的には「日→韓」「韓→日」とも主題の属性¹⁷⁾を表す場合である。「韓→日」では例(4)のような<ヒト는N>の構造の例は少ないが¹⁸⁾、次のような自己紹介の定型文の例が見える。

(3) 南田は三十六歳になる弁護士である。(不11)

서른여섯 살의 노리오는 변호사였다. (외19)

(4) 참, 저는 오늘부터 일하게 된 강태영입니다. (파27)

あ、わたしは今日から勤めることになったカン・テヨンです。(パ28)

なお、<ヒトはV>の構造、<ヒト는V>の構造で対比を表す場合にも、「は」と「는」は自然に対応する。

(5) 黒服は馬鹿丁寧な口上を述べ、金髪女はたどたどしい日本語で挨拶してきた。

(ゲ 11)

검은 옷을 입은 여자는 지나칠 정도로 정중하게 인사를 하고, 금발 여자는 어눌한 일본어로 인사말을 건넸다. (게 15)

(6) “규석씨 입구에 차 대놓고 기찬씨 우리 떠나고 나면 정화씨랑 내 차로 움직여요.”

「ギュソクさんは入り口に車を止めて、ギチャンさんは私たちと別れたら、ジョンファさんと僕車で動きましょう。」(美 36)

上記のように、先行研究での指摘にもあるように、「は」と「는」は自然に対応する。

5-1. 「は」が「가」に対応している場合

ところが例(1)では、〈ヒトは V〉の構造が、韓国語訳は〈ヒト가 V〉の構造になり、「動詞述語文」で、主題の「は」が、主格の「가」に置き換えられている。再び例(1)を挙げる。

(1)「日星自動車から連絡があった」四十五歳の社長はいった。(ゲ 7)

“넛세이 자동차에서 연락이 왔네.” 올해 마흔다섯 살인 사장이 말했다. (게 11)

《理由 1 : 「는」は対比の働きが強い》

例(1)で、「는」ではなく「가」が対応している理由を、本稿では「는」の対比を表す性質に因るものが大きいと考える。

まず例(7)から以下の例を通して、〈ヒトは V〉の構造の対応形式として考えられる〈ヒト는 V〉の構造の例をみることにする。

「는」において、例(4)のように主題の属性を表す例もあるが、「는」の例文には、例(6)にあるように主題を表す働きが薄れ、対比の意味を強く表す場合が多く見られる。次の例のように、〈ヒト는 V〉では、例(7)(8)のように先行のコトガラと後続のコトガラを対比的に述べる場合や、例(9)(10)のように二人の人物の行動を対比的に述べる場合が多い。

(7) 책갈피에서 지폐를 꺼낸 태영은 혹시나 하는 마음에 책을 탈탈 털어도 봤다.

하지만 혹시나는 역시나일 뿐이었다. (파 21)

本の間に挟んであった紙幣を取りだしたテヨンは、もしやと思い、本をパタパタと振ってみた。だが、虚しい期待にすぎなかった。(パ 22)

(8) 그림처럼 펼쳐진 주변 정경에 감탄할 법도 하건만 차 안에 타고 있는 남자는 통화에 여념이 없었다. (파 12)

まるで絵に描いたかのような美しい景色に感激してもよさそうなものなのに、運転中の男は電話に没頭していた。(パ 12)

(9) “우리 아버진 병으로 돌아가셨는데… 너희 아버진?”

「うちのお父さんは病気でなくなったけど…あなたのお父さんは?」(冬 26)

(10) 택시에서 내린 유진은 뒤도 안돌아보고 냅다 뛰기 시작한다. 유진이 얼핏 고개를 돌려보니 준상은 벽에 기대선다.

タクシーから降りたユジン、振り向きもせず一目散に駆けだす。ユジンがちらりと振り返ると、ジュンサンは壁に寄りかかっている。(冬 19)

次のように先行文に対比のコトガラが明示されない場合でも「는」の使用によって、「他の人は来たけど歌手は来ていない」という対比的なコトガラの存在が容易に想像できる。

(11) “가수는 안 와요? 가수도 온다 그랬잖아요.”

「歌手は来ないんですか? 歌手も来るって言ったじゃないですか」(美 22)

例(12)も先行文の「続けてください」という相手の言葉とは逆に「続けていいものか迷うスンジュン」の気持ちを表す内容が続き、先行文と逆の内容が来て、やはり対比が強く表れている。

(12) “계속하세요.” 승준은 정말 계속해도 될지 의심스러웠다. (파 23)

「続けてください」スンジュンは本当に説明をつづけてよいものか躊躇した。

(パ 25)

ところが例(13)では、韓国語原文では、「職員との話しの続きを待つて職員の前に立っているテヨン」と、「目の前に立っているテヨンを無視して電話に集中する職員」が対比的に現れているに対し、韓国語原文の「태영은(テヨンは)」が日本語訳文で「테ヨンの存在を」にかわり、日本語訳で、その対比性が弱まっている。

(13) 직원이 말을 마치기도 전에 전화벨이 울렸다. 냉큼 전화를 받은 여자는 앞에 선 태영은 싹 무시하고 통화에 몰두했다. (파 21)

職員が言い終わらないうちに電話のベルが鳴った。即座に受話器を取った職員は、目の前の테ヨンの存在をすっかり無視して電話に集中している。(パ 22)

例(14)の場合、「ギジュ」の「周りの人を見る」動作と「周りの人から見られ

る」動作の二つの動作を対比的に述べる韓国語文が、その日本語訳では文中の「ギジュ」が文頭に移され、対比性がなくなり、主題として提示されている。「는」と「は」が文の中での出現位置の変化を伴いながら、対比と主題が入れ替わる例である。

- (14) 자신과 함께 레이스를 뛰는 뱅상, 보디에 그리고 정체 모를 남자를 힐끔 살핀 기주는 등 뒤에 선 승준과 금발 여자의 시선도 느꼈다. (파 15)
 ギジュは、同じゲームに臨むバンサン、ボディエ、そして正体不明の男をちらっと見た。背後に立ったスンジュンと金髪女が自分を見つめている。(パ 16)

「는」は例(15)でも、文頭ではなく文中に用いられ、主題としての働きが弱く、「ワイングラス」を「バスタブの底で手探りで探す」動作と「グラスを見付けバスタブから持ち上げる」動作の二つの動作の対比が表れている半面、日本語訳では文頭に「は」が置かれ、主題として用いられている。例(16)も日本語訳で「は」が文頭に移された例である。

- (15) 더듬거리며 바닥을 더듬은 그녀는 잔을 꺼냈다. (파 29)
 彼女は手探りでバスタブの底からワイングラスを拾い上げた。(パ 30)
- (16) 쥐고 있던 두 장의 카드를 내려놓은 보디에 사장은 자신의 패를 모두 오픈했다. (파 17)
 ボディエ社長は手に持っていた二枚のカードをテーブルの上に置き、すべてのカードを開いて見せた。(パ 18)

実際、前接名詞が「ヒト」である場合の「は」と「는」の全ての用例について、文の中における出現位置をみると、次の表のように、「は」と「는」は、全く正反対の様相を示す。

〈表 5〉前接名詞が「ヒト」である場合の文における「は」と「는」の出現位置

出現位置 ¹⁹⁾	文頭	文中	合計
は	266 (74.9%)	89 (25.1%)	355
는	38 (24.8%)	115 (75.2%)	153

「は」は文頭に出現している例が 74.9%であるのに対し、「는」は文頭では 24.8%しか出現せず、75.2%が文中に出現している。文頭を好む「は」と文中を好む「는」の違いが見られる。

例(7)(8)のように「AだけどBする」と前後のコトガラが逆接的なコトガラであったり、例(9)(10)のように「一方はAであるけれど、もう一方はBであ

る」と二つまたは二人の行動が対比されたりする場合とは異なり、例(14)(15)(16)のように、「Aして(そして)Bする」または「BするためにAする」のような二つのコトガラが順接的なコトガラである場合は、対比性が弱い。このような場合、日本語訳において「は」を文頭に移し、対比ではなく主題として用いる傾向が見られ、それは文頭で主題として提示することを好む「は」の性質によるものであると考えられる。韓国語では「는」によって、対比的に提示されるものが、「は」の場合は明らかに対比性が強いものでなければ、主題として提示されると言えよう。「는」が文中でたくさん現れ、対比の用法が活発であるのに、「は」は文頭に現れ、主題として活発に用いられている。

以上のように<ヒト는 V>構文での「는」は主題性が弱く、対比性が強い。それに対し「は」は主題性が強く、「는」と「は」の相違が見られる。

《理由 2 : <ヒトは V> → 「는」: 対比 → 「가」》

以上のように<ヒトは V>の場合、「는」を用いると対比が強く表れるため、「は」が対比の意味でない場合は、韓国語訳では<ヒト가 V>と「가」を用いることになる²⁰⁾。

前接名詞が「ヒト」である場合の、「は」の非対応例 38 例のうち、韓国語で「가」訳になっている例は 17 例(44.7%)もあり、主題の「は」が動詞の前に現れている場合、韓国語訳では主格の「가」がその役割をになっている²¹⁾。

例(1)や、次の例のように主語が「ヒト」で、「動詞述語文」で、述語の動詞が「言う」「見る」などの動作動詞である場合に「は」と「가」の対応が起きる。「は」の前接名詞が述語の動詞の動作主である場合である。この場合日本語では主題の「は」でマークし、韓国語では主格の「가」でマークしている。

(17) その指を口から離すと彼女は横目でこちらを見た。

「佐久間さん、だったね」(ゲ 32)

그 손가락을 입에서 떼더니 그녀가 결눈질로 나를 보았다. (後略) (게 37)

(18) 「それが、いよいよ決まってさ」豆腐を湯の中に置くと同時に南田は言った。

「えっ、何が」「僕の結婚だよ」(不 18)

“사실은 그게 결정됐어.” 두부를 냄비 안에 넣으며 노리오가 말했다.

“결정되다니, 뭐가요?” “결혼 문제.” (외 26)

(19) 「大事なこと？」彼女は眉をよせた。「どういう意味？」(ゲ 56)

“중요한 일?” 그녀가 눈썹을 찌푸렸다. “무슨 뜻?” (게 61)

実際<ヒト는 V>の 145 例のうち、例(1)の「社長はいった。」の「は」のように文頭で「는」が使われ、動詞と直接結びついている例文は見当たらず、このような文型は<ヒト가 V>の場合に見られる。韓国語の主格の「가」が動詞述語

文と合わさっている<ヒト가 V>の構造である例文は、<ヒトは V>の構造の「は」が韓国語訳で「가」に訳されているものと非常に似た文型を示す。次の例(20)から例(23)の<ヒト가 V>の構造の「가」の例と、例(1)や例(17)から例(19)の<ヒトは V>の構造の「は」の例を比べてみるとその文の構造の類似が分かる。

(20) 곁에 서 있던 승준이 냉큼 대답했다. (파 13)

そばに控えていたスンジュンがすぐさま答えた。(パ 14)

(21) 보디에와 자신 둘만 남았다. 보디에가 기주를 보며 말을 붙여왔다. (파 16)

ふたりだけが残ったところで、ボディエがギジュに声をかけた。(パ 17)

(22) “울지마! 언니가 다음에 사줄게… 응? 울지마…”

「泣かないで。お姉ちゃんが今度買ってあげるから。ね?泣かないで」(美 24)

(23) 버스가 깍 하면서 급정거하면 유진^이 내리고 뒤이어 준상^이 따라내린다.

バスがキイーと急停車する。ユジンが降り、続いてジュンサンが降りる。(冬 18)

対比が見られない「は」が動詞述語文と合わさった場合、韓国語では「가」を用いて表す。この場合「는」を用いると対比が強くなるため、それを避けるため、主題の「は」が主格の「가」に置き換えられたものと考えられる。なお<ヒトは V>の構造で動作動詞を用い、「は」が動詞述語文と合わさった場合は、<ヒト가 V>の「가」の場合と類似しており、主語の動作を示す場合、日本語は主題の「は」で示し、韓国語は主格の「가」で示すことが確認できる。

<ヒトは V>構文が<ヒト가 V>の構文に置き換えられ、「は」と「가」の対応が起きる理由として、「は」の場合、対比よりは主題で用いられることが多く、この場合「는」は対比性が強いので用いられにくく、なお動作動詞を用いた動作主が主題の「は」でマークされた場合、韓国語では動作主は主格の「가」でマークされやすいという二つの理由が挙げられる。

5-2. 「가」が「は」に対応している場合

例(2)は日本で放送された韓国ドラマの台詞と日本語字幕の例であるが、この場合、韓国語原文の「가」は日本語で「は」に訳され、なお述部が「맞다 (合っている)」という「動詞」が用いられた「動詞述語文」である<ヒト가 V>の構造から、その訳文は名詞の「息子」と助詞が結合し、「名詞述語文」を成し、<ヒトは N>の構造に変わっている。再び例(2)を挙げる。

(2) “지금부터 니가 하는 말에 책임져. 한마디만 거짓말 하면 죽어. 훈이가 내 아들 맞아?” “내가 잘못했어.”

「自分の話に責任持て。ウソは許さない。フンは俺の息子か？」

「ごめんなさい。」(内)

採集例からは「韓→日」で「가」が「は」に対応している例は少なく²²⁾、次のような例が見つかるのみである。反語文であり疑問詞の「언제(いつ)」が入っている場合の「가」と「は」の対応の例である。

(24) “한국말로 하면 못 알아듣나? 내가 돈벼락이랬지 언제 날벼락이랬어!”
(과 11)

「韓国語で言ったからわからなかったの？わたしは大目玉じゃなくて、大儲けできますようにって言ったのよ！」(パ 11)

前接名詞が「ヒト」である場合の「가」の「は」訳、「は」の「가」訳の様子を見るため「가」と「は」の非対応例を見ることにする。

「가」の「は」訳は、「ヒト」名詞の非対応例の 30 例中 6 例(20%)であり、「は」の「가」訳は、「ヒト」名詞の非対応例の 38 例中 17 例(44.7%)である。「가」が「は」になるより、「は」が「가」になることが多い。

さらにその内訳を述語文のパタンで見ると、「가」の「は」訳のうち、名詞述語文は 4 例で、動詞述語文は 2 例であり、「가」は名詞述語文の場合に「は」訳になりやすい²³⁾。反語文の場合や、疑問詞疑問文で倒置の形を取っている次のような例が見られる。

(25) “자네가 이려고도 사람이야?”

「あんたはそれでも人間かい？」(美 19)

(26) “누구가? 제 아버지가?”

「誰なの？僕の父さんは？」(冬 24)

しかし、「は」の「가」訳の場合は、名詞述語文は 1 例(例(38))だけで、動詞述語文が 16 例もあり、<ヒトは V>の場合に「가」が対応しやすい。

この場合、例(1)や例(17)から例(19)の<ヒトは V>の構造の「は」の例にあるように動詞述語文の例では「言う、答える、つぶやく」などの言語活動を表す動詞が 16 例中 7 例も現れており、その他、「振り向く」「見る」など動作動詞が現れている。これは韓国語例文の例(20)から例(23)の<ヒト가 V>の構造の「가」の例で動作動詞が多く現れているのと同じである。日本語の主題の「は」が韓国語では主格の「가」に置き換えられているのである。

以上の場合には 5 - 1. で考察した動詞述語文での「は」と「가」の対応様相でもあり、ここでは、例(2)のような<ヒト가 V>に対して<ヒトは N>のように「は」の名詞述語文が現れる理由を考察する。本稿ではその理由を次のように考える。

《理由3 : ヒトはN → ヒト는N : 少ない → 히트가N : 少ない
→ 히트는V : 対比 → 히트가V 》

<히트가V>の構造と<히트는N>の構造における「가」と「는」の対応については、「韓→日」の例が採集例からは見当たらないので、「日→韓」の例を用いて考察を行う。

まず<히트는N>の場合、次のように「日→韓」で「는」と対応する場合がある。韓国語訳で「는」を用いると「相談の最中だった小塚が私が入るとすぐに相談を打ち切る」という前後の動作の対比が強くなる。

(27) 小塚は女性社員に何か相談している最中だった。しかしこちらに気づくと、早々に話を打ち切った。(ゲ7)

고쓰카는 여직원과 한창 뭔가 의논하는 중이었다. 그러나 내가 들어가자 서둘러 이야기를 마무리지었다. (게 11)

例(3)と(4)でも挙げたように次のように主題の属性を表す場合、「は」と「는」は対応する。

(28) マキはモデルの卵だ。(ゲ48)

마키는 햇병아리 모델이다. (게 4)

ところがおなじ属性を表す場合でも、<히트는N>の構造の場合、例(29)から例(31)のように韓国語訳において「名詞述語文」から「動詞述語文」に変わったり、例(32)のように動詞「する」の挿入が起きたりする。

(29) 確かに結婚する前の航一は、都会的な様子のいい男であった。(不26)

물론 결혼 전의 고이치는 도시 남자답게 멋져 보였다. (외 34)

(lit. ²⁴かっこよく見えた)

(30) 娘はホテルの庭を横切る遊歩道に入るところだった。(ゲ23)

여자는 호텔 정원을 가로지르는 산책길로 들어서고 있었다. (게 28)

(lit. 入っていた)

(31) もちろん半数以上の同級生たちは、不満を持ちながらもおだやかな結婚生活をおくり、ひとりかふたりの子どもの母親である。(不9)

물론 반수 이상의 동창들은 불만을 느끼면서도 온건하게 결혼 생활을 유지하고 있으며, 이미 한두 아이의 어머니가 되어 있었다. (외 16)

(lit. 母親になっていた)

(32) だとしたら、こんなところまで追跡してきたおれはとんだピエロか。(ゲ22)

그렇다면 이런 곳까지 뒤따라온 나는 어리석은 광대 짓을 한 것인가?(계 27)
 (lit. ピエロの役をしたのか)

このように「名詞述語文」の場合、「日→韓」では、「は」と「는」が対応しているも、「動詞述語文」に変わる現象がみられる²⁵⁾。

「は」と「는」についての指摘ではないものの、日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現について、林八龍(1995:271)では「どちらへお出かけですか」は韓国語では「어디 나가세요 (どちらへ出かけられますか)」になり、「日本語の動詞からの連用形は造語上、生産性が高いだけでなく、名詞としての自立性にもすぐれている」とし、「このようにして成立した連用形名詞の述語文」は「韓国語ではほとんど成立せず、いずれももっぱら動詞文表現しか許容しない」と指摘しており、金恩愛(2003:3)では、「雨の日に会っためがねの子覚えてる？」が韓国語では、「비 오던 날 만났던 안경 낀 애 기억나?(lit. 雨降っていた日会っためがねかけた子記憶出る?)」になるように日本語では名詞しか現れていない表現に対して、韓国語では名詞のほかに動詞오다(降る)、끼다(かける)が現れているとし、日本語は名詞を中心として成り立っている「名詞構造」を、韓国語は用言が支えている「動詞構造」を志向するとしている。

このような日本語と韓国語の表現構造の相違が「は」と「는」を含む文の構造においても現れているといえよう。例(29)から例(32)で見たように日本語の「名詞述語文」は韓国語では「動詞述語文」に変わったり、動詞の挿入が起きたり、他の言葉を補うなど、訳文に変化が多い。「名詞述語文」は韓国語では文の構造上好まれない構造であるといえよう。「名詞述語文」より「動詞述語文」を好む韓国語文の特徴がみられる。

以上のように<ヒトはN>が「는」と対応している例の場合は、「名詞述語文」が「動詞述語文」に変わることが多く、「는」の場合に「ヒト」名詞と「名詞述語文」との結合が難しいことが確認できる。

これは<表4-1>でみるように、韓国語では、<ヒト는N>の例は153例中、わずか8例で5.2%に過ぎない。「는」は「名詞述語文」とは結合しにくい。

わずかながら主題の属性の用法の前述の例(4)の他に、次のような例が見られる。対比が強く現れている例である。

(33) “그래?그럼 있는 부서들 읽어줄테니까 하나 골라봐. 합창부, 기악부, 탁구부, 수예부…” “재는 무슨 분데?” “누구…? 김상혁?”

「そう?じゃ、部の名前を読むから一つ選んで。合唱部、器楽部、卓球部、手芸部…」「あいつは何部?」「誰…?キム・サンヒョク?」(冬21)

(34) “1975년, 올해의 가수왕은 과연 누구까요? 발표드리겠습니다.”

「1975年、今年の歌手王は果たして誰でしょうか?発表します。」(美15)

以上のように<ヒト는 N>の構造の韓国語文が現れにくいので、<ヒトは N>の次の韓国語対応形式として考えられるのは、<ヒト가 N>があるが、これも「가」例の 123 例中、11 例で 8.9%が現れるに過ぎない。この場合、次のような例が見られるが、「ほかでもなく」という意味の排他の例で非常に強調的である。

(35) “이자가 간 뱅상이에요.” (파 14)

「こいつがバンサンです。」(パ 15)

(36) “(놀란) 그 사람이 사장님 아들이야?”

「(驚く)あの人が、社長の息子なの?」(美 36)

疑問詞疑問文の例(37)の場合も「通常起こり得ない」ことが起こった場合で「가」は強調的に用いられている。

(37) “하하하… 고등학생이 이걸 풀다니 놀랍군. 고등학생이 내 강의엔 웬일이지?”

「ははは… 高校生がこれを解くとは驚いたな。それにしても、高校生がなぜ私の講義に?」(冬 23)

韓国語の「는」も「가」も「名詞述語文」とは結合しにくい。そして例(29)から例(32)にあったように日本語の「名詞述語文」は韓国語では「動詞述語文」になりやすい。そのため<ヒトは N>の名詞述語文を<ヒト는 V>の「動詞述語文」に置き換えることが考えられるが、この場合の「는」は 5-1. で考察したように対比の働きが強いため、対比が表れない「は」の場合は用いられず、その結果「가」を用い、<ヒト가 V>の構造を取ることになる。

「は」が「가」に対応した次の場合、韓国語訳で「가」格による主語を文頭に移し、なお「名詞述語文」を韓国語訳では後続文とつなぎ、「動詞述語文」に変えている。

(38) そう大した上流や金持ちの娘はいないが、下からエスカレーター式に上がってきた学生は、たいてい中級以上の東京のサラリーマンの娘だ。だから結束はおそろしく固い。(不 9)

그리고 학생들이 내노라 하는 상류층이나 부잣집 대신, 대부분 도쿄의 중류층 이상인 샐러리맨의 딸들이라서 결속력 하나는 무서울 정도로 강했다. (외 16)

(lit. 娘たちなので)

(lit. 強かった)

<ヒトは N>の構造の場合、韓国語の「는」と「가」が「名詞述語文」と結合しに

くいことにより韓国語では「動詞述語文」になりやすく、なお「는」の対比性の強さにより、「は」と「가」の対応が起きるものと考えられる。

以上のことから例(2)のように<ヒト가 V>と<ヒト는 N>の構造で「가」と「는」の対応が起きるのは、韓国語では「는」も「가」も「名詞述語文」と結合しにくく、韓国語では「名詞述語文」より「動詞述語文」が好まれ、「は」を「는」に置き換えた場合、<ヒト는 V>では対比が強くと表れるので、対比ではない「は」の場合は<ヒト가 V>の構造に対応しているものと考えられる。

6. まとめ

前接名詞が「ヒト」である場合の「は」と「가」の対応の現象を、述語文のパターン、そして実現される意味用法との関係から考察した。

その結果、対比が表れない主題の「は」の場合、対比性の強い「는」とは対応できず、「は」が「動詞述語文」と結合している場合、「가」との対応が起きやすいことを確認した。なお「名詞述語文」の「は」に対し、「는」と「가」は「動詞述語文」の構造で対応をみせ、日本語は「名詞述語文」とも結合するが、韓国語は「名詞述語文」とは結合しにくく、主に「動詞述語文」と結合することが確認できた。

前接名詞が「ヒト」名詞である場合の「は」と「는」を比べると「は」は提題性に優れているのに対し、「는」は対比性に優れている。この違いが「は」と「가」の対応を引き起こす要因であると考えられる。

[付記]本稿は第59回朝鮮学会の研究発表部門(2008年10月5日麗澤大学)で口頭発表したものに加筆、修正を加えたものである。席上ご意見頂いた方々に心から感謝申し上げます。

なお、『韓国語学年報』の査読の方々には詳細を見て頂き、貴重なご指摘を賜った。ここに記して感謝を申し上げたい。

《注》

1) 日本語の「は」に相当する韓国語の形式は、「母音語幹+는」「子音語幹+은」があるが、本稿ではこれらを「는」で代表し、日本語の「が」に相当する韓国語の形式は「母音語幹+가」「子音語幹+이」「尊敬主体+께서」「団体主体+에서」があるが(허용 2001)、そのうち、本稿では「母音語幹+가」「子音語幹+이」だけを扱い、それらを「가」で代表する。

2) 菅野裕臣(1990:257)、朴在權(1990)、黃美玉(2001)にも同様の指摘がある。より詳しくは拙稿(2007)、拙稿(2008)を参照。

3) 他の用語として「総記」(野田尚史 1996:111)、「特定指定」(国立国語院 2005:401)がある。

4) 최승호(1999:537)では、「가」と「가」を基本は主語で、時に排他的な意味をもち、未知の情報述べ、従属節のなかでも用いられるとしており、「は」と「는」については、基本は主題で、対比的な意味を示す時があり、既知の情報述べ、原則として従属節には現れず、主題はあくまでも文全体の主題であると述べている。

5) <表>「日⇔韓」各形式別の対応例と非対応例の用例数

は	=는	≠는	는	=は	≠は	가	=가	≠가	가	=가	≠가
601	509	92	204	160	44	302	247	55	204	148	56
%	84.7	15.3	%	78.4	21.6	%	81.8	18.2	%	72.5	27.5

- 6) 「이게 뭐예요?」「これ(は)何ですか」(梅田博之 1991:27)
- 7) 菅野裕臣(1990:257)では、「いわゆる二重主語(「象は鼻が長い」「わたしは花がすきだ」)は日本語において体言につらなる修飾節では「…は…は」が「…が…が」となるが、朝鮮語ではそれ以外の場合でも「-가/이-가/이」となりうる」と指摘する。「二重主語文」については国立国語院(2005:62)、益岡隆志・田窪行則(1992:147)参照。
- 8) 菅野裕臣(1990:258)では、「日本語では体言につらなる修飾節における主語は「…の」形が可能だが(「お父さんの植えた木」)、朝鮮語ではこの場合「-가/이」が用いられる」とする。本稿ではこの形式や、「～ができる」(～를/을 잘하다)や、「～になる」(～가/이 되다)などのものはあつかわない。これらの形式の日韓対照については、朴在權(1990)、黄美玉(2001)が詳しい。
- 9) 韓国語文献内容の日本語訳は本稿作成者による。
- 10) 例文は、原文を先に記し、その翻訳文を後に記す。この例文の場合は日本語原文と韓国語訳文になる。なお、例文の表記や分かち書きは本文の表記の形のまま引用する。
- 11) 本稿では「は」と「는」、「が」と「가」が受ける前接名詞の種類を無情物のモノ・コトを含むものを「モノ」と代表し、有情物を「ヒト」と代表する。「ヒト」名詞とは、「人の名前」のような固有名詞のほか、「私、彼、あの人」などの代名詞、「学生、社長、妻、友達」などの人の職業や身分を指す名詞を指し、「モノ」名詞とは「家、タクシー」などと「コト」名詞と言うべき「今度、明日、夜」などと、「～のは」「～のが」のように名詞句、名詞節が前に結合している場合を指す。
- 12) 益岡隆志・田窪行則(1992:148-149)では「文が有題文になるか無題文になるかは、述語が状態述語であるか動態述語であるかに深く関係する」としている。
- 13) 「動詞・形容詞・存在詞」で文を結んでいる文の構造を「動詞述語文」とし、「名詞述語文」と区別する。分類の際に、益岡隆志・田窪行則(1992:148-149)には形容詞文が状態述語文になる場合、「は」を取りやすいという指摘があるように、「動詞述語文」においても、動態述語文か、状態述語文であるかを区別して考察する必要があると考えるが、「名詞述語文」の日本語例文と韓国語例文における頻度の差だけでも本稿で述べる「は」と「가」の対応様相は十分説明できると考え、本稿では「名詞述語文」以外のものは「動詞述語文」に分類した。
- 14) 「名詞述語文」の種類については金恩愛(2003:50)を参考に、各形式と結合する述部のパターンが、「名詞+だ、である」「名詞+助詞や副助詞や副詞」「名詞(代名詞、数詞、助数詞を含む)」のほか、「名詞+終助詞や助動詞」である場合を含む。
- 15) 例の採集は、作者や翻訳者の偏りを避けるため、用例出典に挙げたものの中からそれぞれ最初の1章を対象にし、複数の本から採集した。日韓で同じ量の文例を採集しているわけではないので、日韓の量の比較はしていない。しかし、日本語の中での「は」と「가」の出現頻度、韓国語の中での「는」と「가」の出現頻度の比較は可能である。
 なお、用例は「日→韓」「韓→日」の原文と訳文の1セットを1例として数える。例えば「は」601例とは、日本語原文の「は」の例601例と、その翻訳例が601例あるということである。
- 16) 主題と対比、主格と排他はそれぞれが他を排除して一つの用法だけが表れるのではなく、当然重なって表れる場合もあるが、本稿ではより強く表れた用法を中心に述べる。
- 17) 主題の属性とは主題の性質、特徴を指す。益岡隆志・田窪行則(1992:148)参照。
- 18) 前接名詞が「ヒト」名詞である「는」の例153例中、名詞述語文の例は8例で5.2%である。
- 19) 文の中での出現位置における「文頭」とは「は」や「는」が、文の最初や、副詞、接続詞、間投詞などの後に来た場合を指し、「文中」とは、「は」や「는」が文頭以外の位置、つまり句や節の後、または動詞の後などに現れた場合を指す。
- 20) 「は」の「는」と「가」以外の他の対応形式については本稿ではふれない。「は」の非対応例については拙稿(2008)に詳しい。
- 21) なお「는」の場合は、非対応例27例のうち、8例が「가」訳(29.6%)であり、「は」が「가」

になる場合の方が44.7%で高い。「는」の「が」訳については拙稿(2008)参照。

22) 「韓→日」で<ヒトがV>の「が」例のほとんどは「が」に対応している。

23) そのほかの「가」と「は」の対応については拙稿(2007)参照。

24) 「lit」は「literal translation」の略で直訳を指す。直訳は本稿作成者による。

25) 名詞述語文がその訳において動詞述語文に変わった場合は、日本語の場合、<ヒトはN>は44例中9例(20.5%)、<ヒトがN>は18例中5例(27.8%)が現れたのに対し、韓国語の場合、<ヒト는N>は8例中0例(0%)、<ヒト가N>は11例中1例(9.1%)があるだけで、日本語文の名詞述語文が韓国語訳において動詞述語文に置き換わる様子が顕著である。

《日本語文の参考文献》

印省熙(2007)「日本語の「は」と韓国語の「이/가(が)」についての一考察」, 『Lingua』18, 上智大学一般外国語教育センター紀要, pp. 195-216

_____ (2008)「日本語の「は」と韓国語の「는」の相違—翻訳本の非対応の例を中心に—」, 『Lingua』19, 上智大学一般外国語教育センター紀要, pp. 63-83

林八龍(1995)「日本語と韓国語における表現構造の対照考察—日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」, 『宮地裕・敦子先生古希記念論集日本語の研究』, 明治書院, pp. 264-281

梅田博之(1982)「韓国語と日本語—対照研究の問題点」, 『日本語教育』48, 日本語教育学会, pp. 31-42

_____ (1991) 『スタンダードハングル講座2 文法・語彙』, 大修館書店

生越直樹(2002)「3 日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方「きれいな花!」タイプを中心に」, 生越直樹編『シリーズ言語科学4 対照言語学』, 東京大学出版会, pp. 75-98

菅野裕臣(1990)「朝鮮語と日本語」, 『講座日本語と日本語教育12 言語学要説(下)』, 明治書院, pp. 241-265

金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」, 『朝鮮学報』188, 朝鮮学会, pp. 1-83

砂川有里子(2005)『文法と談話の接点—日本語の談話における主題展開機能の研究—』, くろしお出版

최승호 (1999)「日韓対照研究と誤用分析1—「は」と「가」と「는」と「가」とを中心に—」, 『人文科学論集』19号, 清州大学校人文科学研究所, pp. 503-542(韓国)

丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』, 和泉書院

野田尚史(1996/1999)『新日本語文法選書1 「は」と「が」』, くろしお出版

朴在權(1990)「現代日本語における助詞「가」と「하」—韓国語助詞との対照分析—」, 『陸士論文集』39, pp. 39-58(韓国)

黄美玉(2001)「「は・은/는」と「가・이/가」の使い分け—日・韓両国語の対照研究—」, 『日本学報』46, 韓国日本学会, pp. 199-221(韓国)

白峰子(2004)『韓国語文法辞典』, 大井秀明訳, 野間秀樹監修, 三修社

堀口和吉(1995)『「～は～」のはなし』, ひつじ書房

益岡隆志・田窪行則(1992/2004)『基礎日本語文法—改訂版—』, くろしお出版

益岡隆志(2004)「日本語の主題－叙述の類型の観点から－」, 『主題の対照』, くろしお出版, pp. 3-17

_____ (2007)「書評 丹羽哲也著『日本語の題目文』」, 『日本語の研究』3-4, 日本語学会, 2007. 10, pp. 63-68

村田美穂子(1997)『助辞「は」のすべて』, 至文堂

森下喜一・池景来(1992)『日・韓語対照言語学入門』, 白帝社

油谷幸利(2005)『日韓対照言語学入門』, 白帝社

《韓國語文の参考文献》

이은경(1999)「한국어 학습자의 조사 사용에 나타난 오류 분석 - 한국어 학습자의 작문을 중심으로 -」, 연세대학교 대학원 국어국문학과 석사 학위논문(韓國)

国立国語院(2005/2006)『外国人을 위한 韓國語文法 1 体系編』, 커뮤니케이션북스(韓國)

朴鐘文(1983)「우리말과 日本語의 主格助詞「이/가, が」와 特殊助詞「은/는, は」의 弁別的資質에 관한 研究」, 釜山産業大學『論文集』4, pp. 211-224(韓國)

허용(2001)「한국어 교육의 관점에서 본 조사의 특성」, 『한국어문학연구』14, 한국외국어대학교 한국어문학연구회, pp. 27-62(韓國)

洪思滿(1980)「韓・日語 依存形態素의 対照研究(Ⅱ)－特殊助詞「는/은」과 副助詞「wa(は)」와의 比較를中心으로－」, 『어문론총』13・14, 경북대학교문리과대학 국어국문학과, pp. 1-31(韓國)

《用例出典》

「日→韓」

林真理子(1996)『不機嫌な果実』, 文芸春秋, pp. 5-32

→정희성번역(1997)“외출”, 한민사, pp. 11-41

東野圭吾(2002)『ゲームの名は誘拐』, 光文社, pp. 3-57

→권일영번역(2002)“게임의 이름은 유괴”, 노블하우스, pp. 7-63

「韓→日」

安岡明子訳(2003)『「冬」のソナタ」で始める韓国語』, キネマ旬報社, pp. 18-30

金井孝利訳(2004)『「美しき日々」で始める韓国語』, キネマ旬報社, pp. 14-37

유호연(2004)“파리의 연인”, 황금가지, pp. 7-35

→長谷川由起子訳(2005)『パリの恋人』, 竹書房, pp. 8-36

韓國 MBC 드라마, 「내 생애 최고의 스캔달」, 2008. 7. 16. KNTV 放送, 日本語字幕

일본어 「は [wa] 」와 한국어 「가」의 대응양상 - 선형명사가 「사람」 명사인 경우 -

인성희
간다외어대학

종래 한일간에 대응형식이라 일컬어지는 「は」와 「는」, 「が」와 「가」지만 실제 번역자료를 살펴보면 「は」와 「가」의 대응양상이 보인다. 본 연구에서는 그 대응양상을 규명하기 위해 이 네가지 형식에 대한 실제 언어자료를 수집하여 조사하였다. 그 결과 선형명사의 종류와, 후행 술어문 패턴에 있어서 차이가 있는 것을 발견하였고 「は」와 「가」의 대응양상이 나타나는 이유로서 다음과 같은 결론을 도출하였다.

대비 의미가 표출되지 않는 주제 표지 「は」의 경우, 동사술어문에서 대비 의미가 강하게 표출되는 「는」과는 대응되기 어렵고 그 결과

「は」가 동사술어문과 결합된 문형으로 나타나는 경우 「가」와의 대응이 이루어지기 쉽다. 그리고 「は」가 명사술어문 문형으로 나타나는 경우, 「는」이나 「가」는 동사술어문 문형으로 전환되어 대응되는 양상을 보이며 한국어에서는 명사술어문보다 동사술어문이 선호된다는 사실을 알 수 있다. 이것은 「는」과 「가」의 한국어 예문에 있어서 명사술어문이 드물고 동사술어문이 많이 나타난다는 사실을 통해서 확인할 수 있다. 이처럼 일본어 「は」는 명사술어문과의 결합이 활발하나 한국어 「는」과 「가」는 주로 동사술어문 문형으로 제시되는 경향이 강하다.

선형명사가 「사람」 명사이고 동사술어문인 경우의 「は」와 「는」을 비교해 보면 「は」는 주제 표지 기능이 강한테 비하여 「는」은 대비 의미 제시 기능이 강하다는 특징이 보여진다. 이러한 「は」와 「는」의 차이로 인해 「は」는 대비 의미가 강한 「는」과의 대응을 회피하여 「가」와의 대응양상을 보인다.